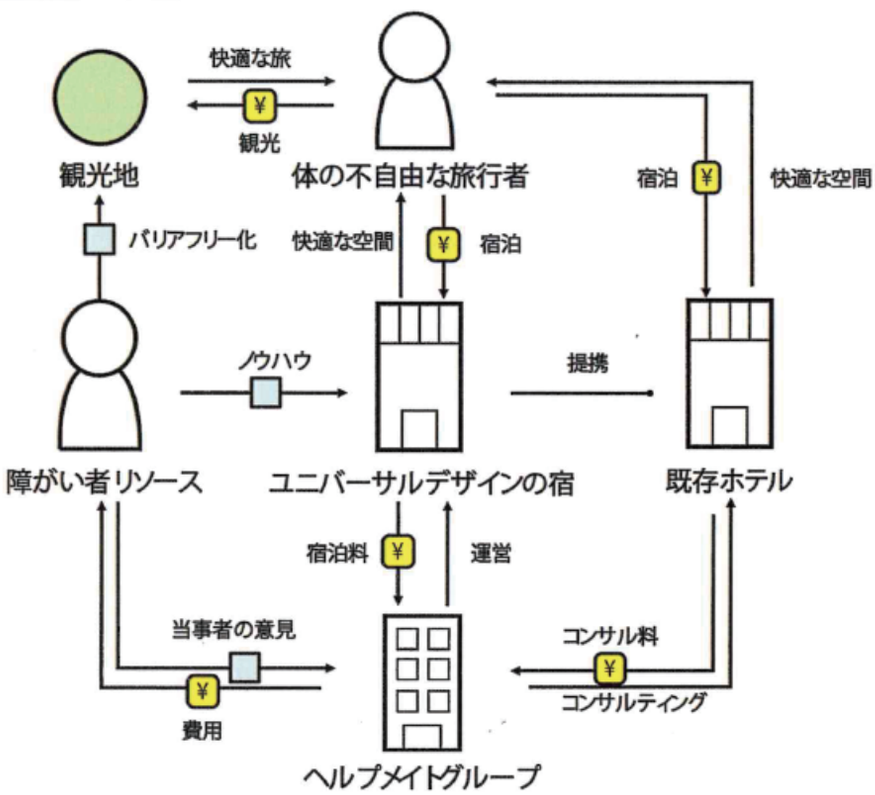
① 事業の内容

☑プランの概要

私自身が重度障がい者であり、これまで障がい者目線を活かした施設のバリアフリー化に取り組んできました。①その取り組みに対するノウハウや、障がい者のネットワークによるリソースを活用して、②「ユニバーサルデザインの宿」を別府に造ります。その宿をモデルケースとして、③ホテルや観光施設へのバリアフリー導入コンサルティングを行います。さらには、これまで旅行をあきらめていた高齢者や障がい者も快適な旅ができるように、④日本全国にユニバーサルデザインの宿を普及させます。

ビジネスモデル



① 障がい者とのネットワークによるリソース

2002年に「NPO法人自立支援センターおおいた」を立ち上げ、様々な事業を通じて障がい者のネットワークを構築し、ユニバーサルデザイン社会の実現に取り組んできました。

② ユニバーサルデザインの宿

重度障がい者も快適に過ごせるような福祉器具を装備しつつ、施設感がでないように高級リゾートのクオリティを提供します。「介護機能」＋「高級感」の融合で唯一無二の存在となり、ユニバーサルデザイン版の星野リゾートを目指します。

③ バリアフリー導入コンサルティング

多くのホテルや宿泊施設ではバリアフリー化が進んでおらず、また既にバリアフリー化に対応した施設でも、障がい者目線の作りでない為、使いづらいケースが多くあります。よって、本当に障がい者が使いやすい客室づくりのコンサルティングが必要です。

④ 全国へユニバーサルデザイン宿の普及

直営のユニバーサルデザイン宿と既存ホテルへのコンサルティングで、ユニバーサルデザイン宿のネットワークを全国に広げます。

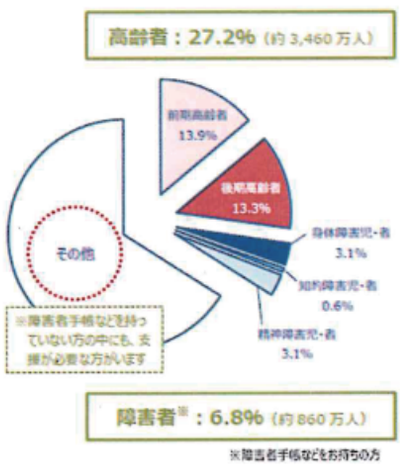
② 事業の目的

☑【事業の目的】

本事業は高まるユニバーサルツーリズムの需要に対応するべく、ユニバーサルデザインの宿を全国に普及することを目的としています。

☑【ユニバーサルツーリズムの需要の高まりについて】

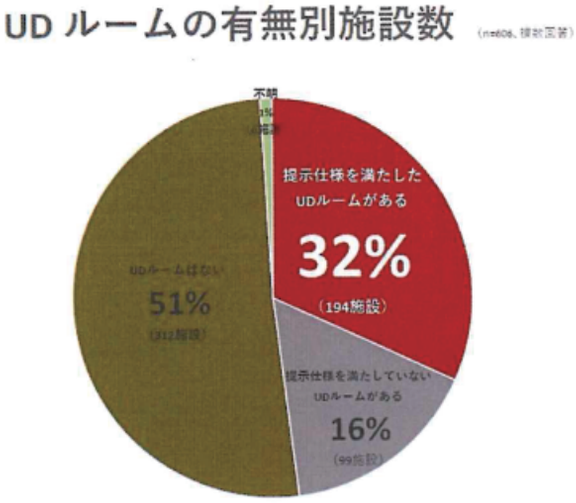
国内総人口のうち、高齢の方や障害のある方の割合は3割以上を占めています。その他、潜在的に発達障害の特性がある方は人口の10%程度といわれ、障害者手帳を有していない方の中にも、旅行に際して介助のサポートを必要とする方はたくさんいます。また高齢の方や障害のある方は、家族や同行者と一緒に旅行に出かける傾向にあり、ユニバーサルツーリズムの需要は今後さらに拡大すると考えられます。コロナ禍においてインバウンドのマーケットは減少傾向にありますが、環境を整備することで国内旅行のマーケットを拡大させることは可能です。その一端を担うのがユニバーサルデザインの視点を活かした街づくりです。



▲国内の人口に占める、高齢者・障害者の割合
（平成 29 年版障害者白書、平成 29 年版高齢社会白書より作成）

☑【宿泊施設のユニバーサルデザインルームの実態について】

国土交通省が2017年10月から12月にかけて実施したユニバーサルデザインルーム（UDルーム）に関する実態調査によると。調査対象にした国内のホテルや旅館といった宿泊施設で、通路などをバリアフリー化している施設は全体の8割近くありました。その一方、車いす使用者用の客室（UDルーム）を備えているホテルおよび旅館の数は、回答した606施設の約3割に当たる194施設であり、16%にあたる99施設が提示仕様を満たしいないUDルームがあると答え、51%にあたる312施設がUDルームはないと答えました。



■ まとめ

これらふたつの資料から、国内における高齢者や障がい者の割合に対して、必要とされるユニバーサルデザインルームの数が圧倒的に不足していることが伺えます。現状では体の不自由な方々は旅行に出かけようにも、宿泊先の選択肢がなく、目的の場所に訪問することが不可能なケースが多々あります。ユニバーサルデザイン宿の普及が、これからの社会において重要な課題となっているのです。

③ 事業の進捗状況及び過去の支援制度利用実績

☑【これまでの取り組み】

1984年　23歳のときに交通事故で頚椎損傷：車椅子生活に。
1991年　有限会社ヘルプメイトグループ立ち上げ：介護用品の販売、イベント企画などを行う。
2002年　NPO法人自立支援センターおおいたを設立：理事長に就任（現会長）
障害者の自立支援、訪問介護サービス、バリアフリー・ユニバーサルデザインのコンサルタント、別府・大分バリアフリー観光センター、飲食店ユニバーサルスペース夢喰夢叶、からあげ夢現鶏などを運営。
2016年　自叙伝「車いすの暴れん坊」を出版

■ ユニバーサルデザインコンサルタントの実績（一部紹介）

◀ ゆわいの宿 竹乃井 別府

軽度障がい者と高齢者用×2部屋
重度障がい者用×1部屋
（リクライニングセミダブルベッド2台＋リフト付きの内風呂あり）
＊稼働率も高く大変ご好評いただいています。

▲べっぷ野上本館（家族風呂）
車いすの座面の高さに洗い場が造ってあり、そのまま取り着いて入浴ができます。

▲ユニバーサルデザインマンション
全フロアユニバーサルデザインの7階建てマンションをプロデュース。

■ 障がい者のネットワークによるリソース

・NPO法人の活動を通じて、様々な種類の障害のある方たちと連携を図り、多くの障がい者とのネットワークを構築しています。
・Facebook：全国のバリアフリーに対応した施設情報を交換するグループを運営
・YouTube：施設に訪問しバリアフリー状況を検証するレポート動画を配信

④　新規性

☑【宿泊施設におけるバリアフリー化の問題点】

国の方針として、高齢者や障がい者が円滑に宿泊施設を利用できるように、建築物にはバリアフリーに関する規制が設けられていますが、下記のような問題があります。

■ 1994年ハートビル法施行

「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律」

■ 2006年バリアフリー法施行

「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」

■ バリアフリー化の問題点

ハートビル法が施行される以前（1990年代前半）に建てられたホテルは、法律の基準を取り入れようにも、構造的にスペースを確保することが不可能なケースが多く、バリアフリー化が進まない要因になっています。また老舗旅館も日本人古来の境界に対する意識（上がる、靴を脱ぐ、腰掛ける）による段差を活かした構造になっており、敷地内の高低差が多いので、改修によるバリアフリー化が非常に困難です。

☑【ユニバーサルデザイン宿の新規性】

上記のように、既存の宿泊施設のバリアフリー化には困難な要因があり、実際に設置してあるバリアフリールームも障がい者の目線で作られていないため、使い勝手の悪いものになっているケースが多くあります。まして重度障がい者の利用に対応する宿泊施設は全国的にも稀です。本事業で造る宿は、設計段階からユニバーサルデザインの基準に沿っており、重度障がい者も快適に過ごせるような福祉器具を装備しています。さらに高級リゾートのクオリティを提供しますので、希少性が高く新しい試みの宿となります。

＊車いすでも支障なく通れるように段差がなく広い通路を確保し、解放感のある空間を提供

＊浴室には天井走行リフトを設置し、車いすの座面の高さの洗い場を設ける

＊介護用ベッドではなく健常者用の高級リクライニングベッドを使用

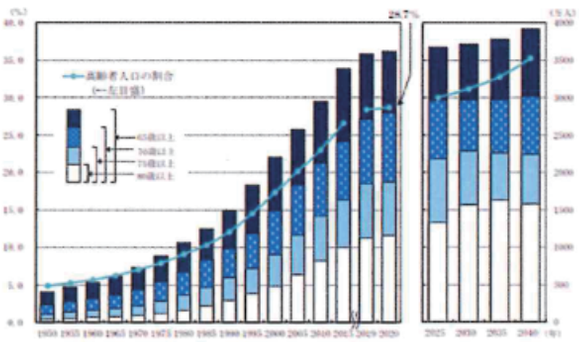
＊トイレには十分なスペースを確保しオストメイトを設置

⑤　成長性

☑【超高齢化社会で高まるユニバーサルデザインのニーズ】

総務省の推計によれば、日本における65歳以上の高齢者人口は2020年9月時点で3617万人（前年推計にくらべて30万人増加）で、総人口に占める割合（高齢化率）は28.7%となりました。高齢者人口・高齢化率ともに過去最高を更新しています。総人口は減少傾向に入っており（2020年は前年比29万人減）、高齢化率は今後も上昇を続ける傾向にあります。高齢者や障がい者など、旅行に際して何らかの配慮の必要な人は、旅における非日常的な楽しみに対する要望が強く、実際に旅行を楽しむ人々は徐々に増えています。高齢化社会の進展に伴い、今後もさらに増加するものと考えられます。このようなことから、すべての人が最大限に旅の楽しみを享受できるように、観光において“ユニバーサルデザイン化”が重要な課題となっているのです。

図１　高齢者人口及び割合の推移（1950年～2040年）



2020年統計からみた高齢化社会の状況

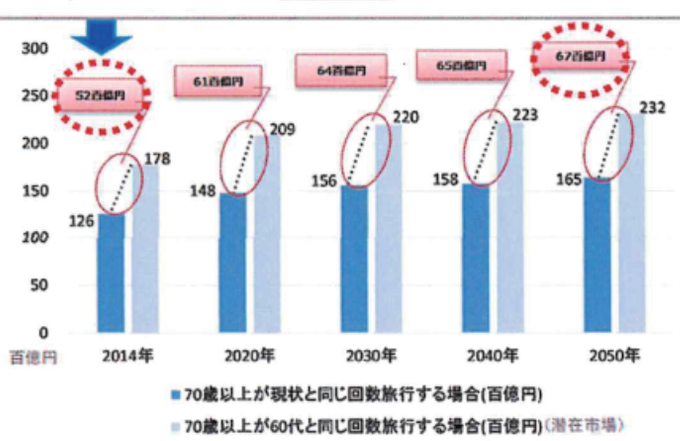
☑【ユニバーサルデザインが旅行市場にもたらす経済効果】

国土交通省が2016年に行った「車いす、足腰が不安なシニア層の国内宿泊旅行拡大に関する調査研究」によると、全年代で60代の旅行回数が最も多く、1人当たりの年間平均国内旅行回数が1.41回となっているのに対し、70代以上では最も低く1.00回となっています。また69歳以下では旅行をしなかった理由の約4割強を「経済的余裕がない、時間的余裕がない」と答えているのに対して、70歳以上の約3割が「健康上の理由」を上げていることがわかりました。特に歩行への不安が多いことから、ユニバーサルデザイン化を進め、環境を整えれば旅行回数を維持できる可能性があることがわかりました。

仮定

70歳以上の高齢者が60代と同じ回数(1.41回)旅行する場合の市場拡大効果

（70歳以上人口23,846千人）×（60代平均旅行回数1.41回-70代平均旅行回数1.00）≒ 980万回
平均旅行単価約53,000円 × 980万回 ＝ 約5,200億円（2014年ベース）



旅行市場の拡大効果約5,200億円
同行者1人を誘発すると仮定すれば、約1兆400億円増
2050年には、拡大効果は約6,700億円、同行者1名の誘発で約1兆3,400億円増

国土交通省「車いす、足腰が不安なシニア層の国内宿泊旅行拡大に関する調査研究」より抜粋

⑥ マーケティング

☑【ターゲットについて】

【ステップ①】ユニバーサルデザイン宿においては、体の不自由な高齢者や障がい者
【ステップ②】コンサルティング業務においては、ユニバーサルデザインルームの設置を検討されている施設担当者または街づくりを担う行政担当者
【ステップ③】ユニバーサルデザイン宿の全国展開においては、大手ゼネコンや不動産ディベロッパー

☑【ステップ①どのように集客を行うか】

① Facebookグループでの告知

全国の宿泊施設や店舗のバリアフリー情報を交換するグループを運営しているので、そちらのコミュニティでユニバーサルデザインルーム宿の普及に賛同するメンバーを増やし積極的に告知を行う。（2021年8月25日現在グループメンバー数４１０人）

② YouTubeでの告知

施設に訪問しバリアフリー状況を検証するレポート動画を配信しているので、登録者数を増やして告知を行う。（2021年8月17日現在チャンネル登録者数１０２人）

③ 障がい者インフルエンサーの活用

影響力のあるインフルエンサーを起用し告知を行う。また自身のYouTubeチャンネルとコラボを行い登録者数を増やす。

④ SNSマーケティング専門家の協力

協力メンバーとしてマーケティングの専門家がいるので、SNSの効力をフル活用する。

⑤ バリアフリー施設紹介サイトの活用

バリアフリー情報の紹介サイトや、その他施設紹介サイトに宿の情報掲載を依頼する。

⑥ 自社の宿泊予約専用サイトの構築

自社の宿泊予約サイトを立ち上げ、申し込み窓口のリンクを多方面に掲載し導入を促す。

⑦ 宿泊予約サイトの活用

予約数が安定するまでは、楽天トラベルやじゃらんなどの宿泊予約サイトを活用する。

⑧ メディアやプレスリリースを活用した口コミの拡散

全国的にも珍しい試みの宿なので、積極的にマスコミの力を活用し情報を拡散する。

⑦ 実現性

商品・技術・サービス等の生産（提供）方法等を記入すること。また、経営的、技術的な課題や制約がある場合は、その解決方法を記入すること

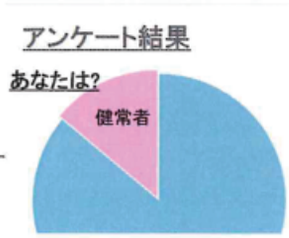
☑【ユニバーサルデザイン宿の運営にあたって】

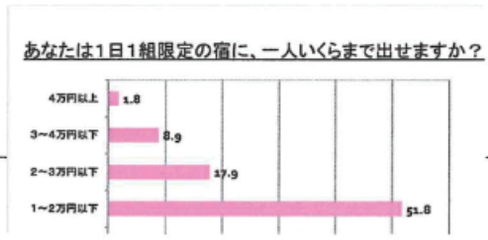
■ 障がい者リソースの構築

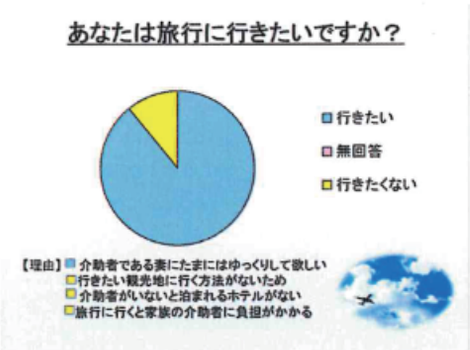
将来寝たきりになるPLS原発性側索硬化症患者、視覚障がい者、聴覚障がい者、福祉機器の開発者、作業療法士、理学療法士、福祉に特化した建設会社と連携して、様々な障害に対応したユニバーサルデザインルームを運営するチームを組んでいる。

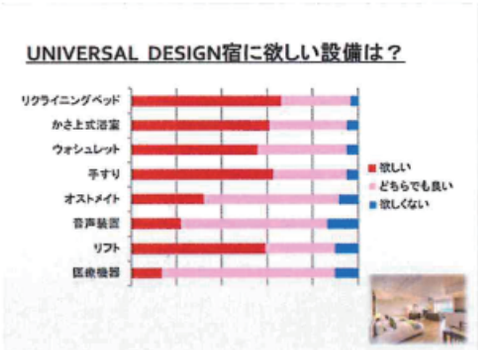
■ アンケートの活用によるニーズの把握

私自身が障がい者であり、SNSなどの交流を通して、障がい者目線でのバリアフリー化に対する要望を集めているので、アンケートを活用してユニバーサルデザインに求められるニーズを把握し、宿の運営に反映させる。









■ **アンケートからわかったユニバーサルデザイン宿に対するニーズ**

・デザイン性を考慮したユニバーサルデザインルームが欲しい
・施設での介助入浴では味わえないゆったり感が欲しい
・旅行に行ってもリフトがない為お風呂に入れない
・部屋からお風呂までリフトで移動ができるのがベスト
・介助者である妻にもたまにはゆっくりして欲しい、ふたりでゆっくりしたい

■ **ニーズに対する対策案**

・宿で最新の介助機器を使ってみたい → 介護用機器を扱っている企業とコラボして機器のサンプリングを実施する
・ヘルパー派遣の要望 → 希望者には有償でヘルパー・看護師派遣ができる体制を整える
・移動面の心配 → 介護タクシー会社と提携する
・街歩きの心配 → 別府・大分バリアフリー観光センターで専門ガイドの手配を行う

☑【現状抱える課題】

コロナ禍における流通の関係で建築資材の価格が上がる可能性がある → コロナ収束時期の見極めと施工時期の調整を行う必要がある。

⑧　社会性

この事業（商品・技術・サービス等）が提供されることにより、地域経済への波及効果や地域社会への貢献がある場合は、具体的に記入すること

☑【社会性①：高齢化社会にもたらす効果】

国土交通省の「車いす、足腰が不安なシニア層の国内宿泊旅行拡大に関する調査研究」によると、観光におけるユニバーサルデザイン化が促進されると、高齢化社会において下記のような効果があると言われています。

① 国内宿泊旅行市場の拡大

70歳以上が60代と同じ回数を旅行する場合の市場拡大効果は5,200億円程度。同行者1人が誘発されると仮定すると約1兆400億円。

② 本人・家族の喜び、リフレッシュ

「旅行を楽しむ」ことは高齢者本人や家族の喜びである。また温泉地などへの旅行は心身をリフレッシュする絶好の機会となる。加えて。介護のために家を離れられない家族が一緒に旅行し、リフレッシュする効果も期待される。

③ 健康増進による医療費の削減

高齢者本人の健康増進効果と医療・介護費用の削減も期待される。